



横浜陶芸友の会だより

第 194 号

令和 7 年

8 月 15 日発行

「役員会を終えて」

横浜陶芸友の会会長 鍋島 弘義



令和 7 年 7 月 26 日（土）に杉田地区センターにおいて「役員会」が行われました。内容としては事業部から作品展の抽選結果が報告さ

れ、令和 8 年 1 月 13 日から 18 日に決まりました。特設コーナーの課題は「飯茶碗」です。どんな作品が出てくるか楽しみです。

専修部の「秋期焼成会」は猛暑を避け 9 月末に受付を始めます。今年もまた井上様の場所と窯をお借りして行います。

また、専修部で保管している釉薬の材料も今年の焼成会時に在庫を調査して会員の方々に会報でお知らせをし、差し上げる方向で検討しているとの報告もありました。

関東学院大学の「関キャンfes.」は 11 月 1 ～ 2 日と日程だけが決まっています。未だ連絡が来ていませんが、詳細が分かりましたらラインやメール、電話などお知らせいたします。また、作品の出展等をお願いするかもしれません。

よろしくご協力お願いいたします。

役員会が早く終わったので雑談しながら会をどのように終わらせるか？など、話し合われました。

私個人の気持としては「第 50 回作品展」を持ってこの会を閉めたいと思っています。が、最近健康診断で引つ掛かり内視鏡検査を 2 回行った時に体力の衰えを痛切に感じてしまいました。この調子では 50 回の作品展を待たずに会への参加も出来なくなるのでは？などと思ってしまうました。

どの会員の方も少なからず体のアチコチに持病を抱えていると思います。上手に体力や持病と付き合いながら、その日が来るまで、一日一日を一年一年を大事に過ごしましょう。役員会の後、何人かで焼き鳥屋に飲みに行きましたが、この会の楽しみの一つは、飲める人も飲めない人も一緒になって陶芸談義に花を咲かせ、楽しいひと時が過ごせる処ですね。酒が飲める内は、まだまだ元気だと思いつながら、また、みんなで一杯やりましょう。今夏も酷暑になりそうです。気を付けて乗り越えて、またお会いしましょう。

「役員会」報告

7 月 26 日（土）15 時より、杉田地区センターにおいて、会長、副会長、各役員 5 名の出席で話し合いました。

《 議題 》

一、各部からの報告

①総務部

○今年は「関東学院大学」の「関キャンfes.」への参加についての案内がまだ来ていません。詳細が分かり次第ラインやメールでお知らせいたします。

（日程）11 月 1 日（土）、2 日（日）

○会計より

・次回は、焼成会の会計監査を役員会終了後に行います。

○広報より

・次回は 11 月中旬に会報を発行する予定。会報と一緒に「作品展」のご案内とハガキを同封いたします。

・作品展で「陶陶さん」特集を企画する予定。

○その他

・杉田地区センターに鍵のかかる棚が借りられました。活用方法を考えていきます。

「事業部」より

「作品展」の日程が決まりました。

「第46回作品展」について

〈会場〉かなつくホール3階ギャラリーA

〈会期〉令和8年1月13日(火)～18日(日)

〈出展料〉前回同様(45cm) 2000円

〈特設コーナー課題〉「飯茶碗」

※過去に作った思い出の作品でも構いません。
もちろん新作も大歓迎です。

その他

- ・感染症対策については、かなつくホールの方針を遵守する。
- ・作品展の詳細については次回の役員会で報告し11月の会報に同封する。

【次回の「役員会」予定】

11月8日(土) 15時から
(場所) 杉田地区センターです

※参加よろしく願います

「専修部」より

毎年恒例の秋期焼成会を左記日程で秋期焼成会を行います。

記

○9月28日(日) AM10時 受付

○10月5日(日) AM10時 釉掛け

○「作品引渡し」については参加重量により受付時にご案内いたします。

○「焼成費」は 1000円／1kg

※受付時 素焼き済み作品を持参した方は希望により 当日釉掛けも可能です。

※(その場合は 5日に来る必要はありません。)

※木の葉天目焼成希望者は、天目にて焼成済み作品を、ご持参ください。

木の葉は専修部で用意しますが木の葉を押える陶片をご用意してください。

※基本的には酸化焼成です。

※釉薬は「友の会だより」昨年2月号掲載の25種類あります。

〈受付会場・問い合わせ先〉
(住所)

※下記、地図参照

会場図

陶芸を長年取り組んできた皆様だと思います。夢中で大作に挑戦したり細かな細工を施したりと・・・その集大成の楽しいひと時を会員の皆様と共有しませんか？
きつと忘れない時間となります。
今年も会場が技能文化会館ではありませんので、ご注意ください。



【 保土ヶ谷小学校の生徒作品 】

「第 45 回作品展」では、保土ヶ谷小学校 3 年生の生徒作品が展示され会期中には保護者と一緒に来場され会場も賑わいました。



全体作品展示



「鉢カバー」: 黒泥
黒マット 灯油窯



「掛け分け皿」: 益子赤土
唐津あめ釉・織部釉 灯油窯



「土笛」: 信楽・黒泥
絵の具・透明釉 灯油窯



「楕円皿」: 益子赤土
織部釉 灯油窯



「蚊取り線香ケース」: 益子赤土
唐津あめ釉・鉄赤釉 灯油窯

「第 45 回作品展」 川島幸子

「鉢カバー」は紐がもう少し細いのを作りたかった。上が広く、下が狭くなったのは粘土の重みで潰れてしまったから。積む時に下を乾かしながらやればよかった。ちょうど良い受皿があって良かった。

「楕円皿」は土との相性で黒マットのように見えるが、織部を掛けてあります。マスキングをした線が彫ってあるように見えるのは釉薬が濃くかかったからです。

「掛け分け皿」の織部も違った色に見えます。干支の白蛇の笛は 3 個作りお正月に子供たちにあげた。白と赤の土があったので絵の具で色を着け透明釉を掛けたらきれいな白や灰色がかった色が出ました。

「蚊取り線香ケース」は子供に頼まれて作ったもの。



② 角皿 : 青白交趾
黒御影土+化粧土
酸化焼成～終了 10 分還元



① 花器:トルコ青マツ
酸化焼成～少し還元・穴窯



全体の作品展示

「第45回作品展」
井上 明



③④ 湯呑とマグカップ
青白交趾+外側トルコ青マツ
酸化焼成～終了 10 分還元



⑤⑥ 湯呑とマグカップ
青白交趾+外側トルコ青マツ
酸化焼成 信楽白土



⑬ 朝鮮唐津花器・穴窯



⑦⑧ 角皿小 : 青白交趾
黒御影土+化粧土
酸化焼成～終了 10 分還元

⑨⑩ 角皿小 : 青白交趾
黒御影土+化粧土 酸化焼成



⑫ 中鉢 : コバルトブルー(自作)
青織部ほか掛け分け 酸化焼成

この①花器は、トルコマツを掛けて穴窯で焼いた物。窯から出た時は還元がかかっているから赤が出ている。ちょっと面白いかな～と思って挑戦したのが、②角皿で基本的には黒御影の土に化粧土をかけ青白交趾を掛けた物。ここからが①からのヒントで、酸化で焼くと⑤⑥の色だが、③④湯呑とマグカップは最後の 10 分間だけ還元を掛けてから酸化にもどした。酸化の青と還元の赤が共存している。ちょっと還元を掛けるとこうなるよ。という話になる。⑦⑧と⑨⑩も比較対象で並べてみた。今回は 10 分間やってみたけど、これが 5 分間なら 15 分間ならどうかとか、やってみればそれなりに結果が違ってくるかもしれない。

⑬の花器は、あまり穴窯で釉薬というのはあまりやったことはなかったのですが穴窯で長時間だったのできれいに流れたと思う。

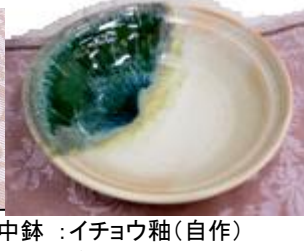
⑪の中皿は、自分で作った釉薬でイチョウの葉の色に似ているのでイチョウ釉と名前をつけた。それにトルコガラス釉の粉をそのまま降り掛けた。

⑭長皿も同じように穴窯で焼いた後変化が欲しくて亀甲貫入釉の粉を振りかけた物。

⑫中鉢は手持ちの 6 種類の釉薬を色んな掛け方で掛けてみた物。青織部、飴釉、ワラ白、松灰、等ピックアップして掛けてみた。



⑭長皿 : 穴窯焼成後 2 度焼き
亀甲貫入釉粉振り掛け



⑪ 中鉢 : イチョウ釉(自作)
+トルコガラス釉粉振り掛け
酸化焼成

陶陶さん

第 116 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 194 号

(令和 7 年 8 月 12 日発行)
(発行人) 横浜陶芸友の会

中心のこの仏さまは、一心に空に向かって祈っています。脇の二体は渋い顔をしています。たぶん私の分身で、まだ悟ることができず、あれこれ頭の中で煩惱が走っているのだと思います。



作品名「念ずれば花開く」(三体を一つの作品としています) 粘土:越前土
焼成方法:電気窯で還元焼成

「第45回作品展」

松崎紀一

鬼は怖いけど本当は身勝手な人間社会に傷つけられた者たちかもしれません。どこか憎めない愛すべき存在として私の心の中に住んでおり時々出てきては一緒に飲んでいきます。



作品名「鬼 ～飲まなきゃやってられねえ～」
粘土:越前土 焼成方法:電気窯で還元焼成



作品名「令和の六地藏」
粘土:越前土 焼成方法:電気窯で還元焼成

チビ地藏は私のライフワークになりました。

生きることは生き続けること。出会った人たちが、今日も明日も元気に生きていけるように、その背中を優しく、そっと押してくれる。そんな地藏が作れるようになりたいと願っています。



作品名「陽だまり」 粘土:赤津土
釉薬:織部釉と黒天目釉と透明釉

我が家に飾っていたら、どことなく孫娘に似ていると思うようになり、今回出展させました。男性である私には、女性は永遠の美であり憧れです。娘時代の繊細な心が表現できたらいいな～と、思っています。

【編集後記】

・最近の天候不順で金谷も猛暑、大雨と体調維持に苦労しています。と、漫画を描いていただいている赤星様からメールが来ています。

昨年より更に早くから猛暑が始まり、雨が降らず稲の水が枯れたとニュースが流れると今度は大雨による浸水、土砂崩れなどの被害のニュース。本当に異常気象が続く毎日になりました。

水分をこまめにとり、熱中症には気を付けましょう。

・「第45回作品展」の掲載が始まりました。作品に込められた皆様の思いが少しでも伝えられるように頑張ります。

鍋島弘義